

FPパートナー

AAA(トリプル・エー)メンバー與さんが講演 LGBTQ+理解促進へ社員向け研修

FPパートナーは5月27日、東京都新宿区のベルサール高田馬場で、多様性やセクシユアルマイノリティに関する理解促進を目的に、LGBTQ+当事者であることを公表したパフォーマンスグループAAA(トリプル・エー)メンバーの與真司郎さんによる講演「自分らしく生きる」を実施した。当日は同社社員がフアシリテーターを務め、與さんとQ&A形式の対談を行い、会場参加・オンライン参加合わせて約2500人の社員が聴講した。幼期の苦悩、周囲に当事者であることを打ち明けるまでの困難、家族との関係性、日本と米国のLGBTQ+への意識差等、與さんの包み隠さず話す姿に、参加者は皆真剣な眼差しで耳を傾け、傾きながらメモを取る様子も見られた。



講演する與さん

講演の冒頭のあいさつで同社の黒木勉代表取締役社長は、昨今、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の発展形としてダイバーシティ(多様性)・エクイティ(公平性)・インクルージョン(包括性)の頭文字をとったDEIという考え方が注目されており、これは一人ひとりの多様な個性を生かすことで企業経営の価値創出に



左から黒木社長、與さん、進行を務めた宮本執行役員

つながるという考え方で取り組みの第一歩として、今回の講演を価値観の多様化について考えるきっかけにしていきたい。昨年度、当社は年間15万人のお客さまにお金や保険に関する相談申

幼少期の苦悩、困難、米国との意識差など語る

込をいたしたが、一人として同じお客さまはいらっしゃらない。人へのサービスを行う当社だからこそ、柔軟な考え方で捉え方、他者を思いやる気持ちが必要になる

が、これは経済面だけでなく、その自身が「自分らしく幸せに生きる」ことが重要というところであり、これは昨今の社会課題にもなっている。当社はDEIに取り組んでいっ上で、LGBTQ+やマイノリティに悩む方々を応援し、誰もが幸せに生きる社会づくりへ貢献したいと思っている」と呼び掛けた。

見ると日本は遅れているという認識があったが、お話を聞きながら自分の考えが変わっていくのを感じた。偏見や疑い固まった考えではなく、社員皆で意識を変えていきたい。これから接するお客さまの対応にも生かして欲しいと思う」と述べた。

参加した社員からは、「自分を受け入れられた今の與さんがとても輝いていて素敵だった。ハッラツとして自信にあふれている姿が印象的で、私もそのままの自分でいいんだと勇気をももらった(30代女性)」、「友人からカミングアウトを受けたとき、少し反応に戸惑ってしまった経験がある。しかし、與さんの講演をきっかけに、自分の中でLGBTQ+への理解が進み、今後、誰かのカミングアウトを受けることがあっても、自然に受け入れられるように思う(30代男性)」、「米国での様子を聞き、日本はLGBTQ+への理解が遅れていると感じたが、與さんのように勇気を持ってカミングアウトする方がいらっしやるおかげで、以前より理解できる方が増えたように思う。数年後には当たり前になっていることを願っている(30代男性)」、「LGBTQ+当事者の方の話を直接聞いた初めての機会だった。もともと偏見は持っていたが、当事者の方が抱える苦悩、葛藤を知り、自分や社会ができることがまだまだあるように感じた。今回の講演は一つのきっかけに過ぎないかもしれないが、誰もが平等に過(せる)世の中になるよう、自分ができることを考えていきたい(40代女性)」などの感想が寄せられた。